博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏　　名	青柳　千春
学　　位	博　士（教育学）
学位記番号	新大院博（教）第 26 号
学位授与の日付	令和 3 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 3 項該当
博士論文名	子供の心の健康支援に向けた尺度の開発と活用に関する論考 ～「中学生の心の健康に関する能力・態度及びソーシャルサポートの状況を把握するための尺度」の信頼性・妥当性の検討～
論文審査委員	主　査　准教授　笠巻　純一 副　査　教　授　横山　知行 副　査　准教授　雲尾　周

博士論文の要旨

本論文は，中学生の心の健康と学校教育を中心とした健康支援の実態を明らかにするとともに，我が国における健康支援策の課題を抽出し，心の健康に関する能力・態度及びソーシャルサポートの状況を把握するための尺度の開発を通して，効果的な心の健康支援策について検討することを目的としている。

論文は 5 つの章で構成されている。第 1 章では，背景と問題の所在，研究の目的と意義，第 2 章では，子供の心の健康づくりに関わる学校の支援に関する動向及び課題，第 3 章では，中学生の心の健康に関する能力・態度及びソーシャルサポートの状況を把握するための新たな尺度の作成と信頼性・妥当性の検討，第 4 章では学校教育における上記尺度の活用可能性について論じ，第 5 章において結論を述べている。

第 1 章では，我が国の学齢期の子供の心の健康の現状と対策の実態を踏まえ，学校保健における子供の心の健康支援策を検討することの必要性について論じている。問題の所在を明らかにした上で，思春期における心の成長や子供を取り巻く環境を包括的に捉えるための「心の健康支援に向けた尺度」の開発を通した学校教育における心の健康支援体制の充実等，研究の意義・目的について論じている。

第 2 章では，文献レビューを行い，1）子供の心の健康づくりに関わる学校の支援に関する研究動向及び 2）我が国の中学生を対象とした心理教育プログラムの実践に関わる課題を明らか

にした。解析結果から，①子供の社会性や人間関係能力の発達を促したり，心の健康の保持増進に関する知識・技能の習得と自己管理能力を支援したりするための学校・家庭・地域の連携の必要性，②心の健康に課題を抱えている子供への医療的支援および学校生活での個別的・専門的な支援の必要性，③子育てに伴う不安や困難さを感じる保護者への社会的支援強化の必要性を明示している。さらに，心理尺度を用いた子供の心の健康問題の早期発見や早期対応，学習指導要領を考慮した教育プログラムへの適用の重要性について論じている。

第 3 章では，予備調査に基づく「中学生の心の健康に関する能力・態度及びソーシャルサポートの状況を把握するための尺度」の作成を経て実施した本調査結果（中学 1 年生～3 年生，計 2,856 名の調査結果を分析）から，尺度の信頼性・妥当性を検討している。抽出された因子には，健康日本 21（厚生省，2000）の示す「こころの健康」の概念（「情緒的健康」「知的健康」「社会的健康」「人間的健康」）に該当する項目が含まれていることや，主観的な健康状態との関連を明らかにし，内容的妥当性等が支持されたことを示している。

第 4 章では，本研究において開発した「中学生の心の健康に関する能力・態度及びソーシャルサポートの状況を把握するための尺度」の活用方法及び実用化について検討している。本尺度が子供の心の健康に影響し得る内的・外的要因を把握し，中学生を対象とした心の健康に関する教育的支援に大きく寄与することについて論じている。

第 5 章では，第 1 章から第 4 章を総括するとともに，中学校における本尺度の活用モデルを作成し提示している。開発した尺度が，子供の心の成長を促す教育的支援の推進及び子供を取り巻く学校・家庭等の環境要因の改善に寄与する可能性について論じ，今後の展望と課題を提示している。

審査結果の要旨

本研究の意義は，我が国の学校における子供の心の健康支援策について，文献レビューによる詳細な課題の抽出と質問紙調査の解析結果に基づく尺度開発を通して，中学生に対する新たな心の健康支援の在り方を提示したことにある。

学校における子供の心の健康支援には，これまでいくつかの心理尺度が用いられ，子供の精神的健康や生活満足度等の把握，教師による健康支援に有効活用されてきた。一方で，児童生徒が自らの心の健康課題に気づくとともに，学校と家庭の双方が子供の心の成長を把握しながら教育的支援を行うために活用できる尺度は見当たらない。青柳氏は，我が国の学校における子供の心の健康支援に関する課題を明らかにして，「中学生の心の健康に関する能力・態度及びソーシャルサポートの状況を把握するための尺度」開発を通して，学校教育における実用化に向けた新たな提案を行っている。青柳氏が開発した尺度は，中学生が自身の心の健康に関連

した能力や態度への気づきを促すとともに,生徒を支援する教師や家族との関わりに対する認識を把握することによる教育的支援への活用が期待される。また，開発した尺度を用いて，経年的にその変化を把握し，フィードバックされた結果をもとに，系統的な支援に繋げることが可能と考えられる。青柳氏は，2017 年（平成 29 年）改訂の学習指導要領において示されている「生きる力」を育むための 3 本柱（①知識及び技能，②思考力，判断力，表現力等，③学びに向かう力，人間性等）と尺度の下位概念との関連性を示し，子供の心の成長を促し，心の健康問題の解決へ向けた教育的支援の在り方について論じており,極めて新規性の高い内容といえる。成長・発達段階にある中学生の心の健康状態に影響し得る態度や能力，ソーシャルサポートの状況を把握することができる包括的尺度を開発し,学校教育における効果的活用について検討した青柳氏の研究は,中学生の心の健康問題を解決するための効果的な支援の推進に寄与するものであり高く評価できる。

本研究は，以下に示すいくつかの限界を有している。本研究は，尺度の開発を基盤とした研究であり，理論的なアプローチによって，実用化の提案を行っているが，実用化を図るためには,介入研究等を実施することで尺度の有用性を高めるための慎重かつ入念な検討を行う必要がある。尺度を用いた縦断調査や構成概念妥当性の確証度を高めるための継続的な研究も必要である。

上記の課題は残るものの，これらは発展的な課題であり，博士学位論文としての意義を損なうものではないといえる。本論文審査委員会は，青柳氏が，我が国の学校における子供の心の健康問題の解決に向けた尺度開発とその活用に関する検討によって，教育的支援の新たな方向性を見出したことを高く評価した。

以上の審査結果から，本論文審査委員会は，全会一致で，本論文が博士論文としての水準に達していると認め，特に中学生の心の健康尺度の開発であること，および中学校での活用を志向していることから，博士（教育学）の学位が適当であると判断した。